News Copter

ロビンソンR44 News Copterによる「初日の出」生中継

アルファーアビエイション　齋藤　健司

日本においての報道ヘリの現状

報道ヘリとは、ヘリコプターにマイクロウェーブ電送装置（FPU）と振動によるブレを防ぐジャイロ安定装置付きカメラをセットし、生中継を行えるようにしたものをいうのが一般的となっている。日本ではこのような報道ヘリをキー局は3機程度、準キー局は2機程度使用しており、トータル40機の報道ヘリが在籍している。長野放送の1機を除いてすべてのヘリコプターは、ヘリを飛ばすプロの会社である航空法の「航空機使用事業」の免許をもつ会社が所有し、搭載されたFPU、ジャイロカメラ、モニター、VTR等の放送機器は放送局が所有している。そして報道ヘリはパイロットとカメラマンを常に待機させ、すぐに離陸できる状態でスタンバイをしている。カメラは光学ユニットを分割できるものがジャイロ安定装置に搭載するためには必要とされ、ソニーと池上製のカメラが搭載されている場合がほとんどである。これからの報道ヘリの増加の見込みは、地方局が導入して増えていくという見込みが立つのだが、デジタル化に向けての費用負担問題で、いままでどおりのキー局と同じ中型ヘリコプターを導入できる地方局がどのくらいあるのかは未知数である。

ENG用ヘリコプター、ロビンソン R44 News Copter

茨城県下妻市にある、アルファーアビエイションの下妻ヘリポート・訓練所

ロビンソン R44 News Copterの紹介

基本機体であるロビンソンR44は現在世界で最も売れているヘリコプターである。ほかのヘリコプターの年間生産機数が50機以下で1桁の生産機数も多いなかで、ロビンソンR44は年間生産機数250機以上を誇っている。10倍の生産機数をもっていれば販売価格が安くできるのはあたりまえで、同じ人数が搭乗できる同等の機体の半分以下で販売されており、マーケットを席巻している。ロビンソン・ヘリコプターは1970年に現社長フランク・ロビンソンによりガレージで創業され、1980年に2人乗りのロビンソンR22を販売開始し、このロビンソンR22は現在までに3300機が販売されている。そしてロビンソンR44は1994年より販売開始され1200機が販売されている。このベストセラー機R44にENG機材を生産工場で装着したのがロビンソン R44 News Copterである。他社のENG用ヘリコプターの場合、